

見識と考え方の幅を広げてくれる場



みの〜れ住民劇団 演劇ファミリーMyu

ひらねみなこ
平根美奈子さん

みの〜れと共に生活するスタイル
Minole Life
のすすめ
No.181

みの〜れをすっぽり包み込むように大きく成長した木々は、今年もたくさんのごんぐりの実をつけました。芝生の広場は、休日には秋空の下で楽しそうに遊ぶ人たちが賑わっています。11月3日、みの〜れは20歳の誕生日を迎えます。今回は、みの〜れ住民劇団演劇ファミリーMyuで舞台美術、衣装製作を担当している、笠間市にお住まいの平根美奈子さんを取材します。

居心地良い場 Myuの強み

Myuに関わるようになってきたきっかけは、独身時代から親交のあった近田由美さんから声をかけてもらったこと。「娘の稟華が幼い頃から見守ってくれている近田さんが、稟華が演劇に向いていると感じたそうなんです。Myuに関わることになるご縁でもありがたかったです」と平根さん。稟華さんは、Myuの活動を続けているのは「客席から公演を観るよりもステージに立ってみんなと一緒に感動を分かち合いたいから」だそうです。平根さんは「面白い見方をしているなと思います」とにっこり。近田さんが感じたことは確かに当たっているようです。

住んでいる地域が違う保護者たちが集まって、頑張っている子どもたちのために舞

台美術や衣装製作をしているのは、一緒に創る楽しさがあるから。「そこがMyuの強みでもあると思います」。

舞台美術・道具・衣装のまとめ役である廣木たみ子さんと君羅奈央さんが、これまで積み重ねてきた経験を基に「新たに加わった人たちが安心して自分の力を発揮できるように、居心地の良い雰囲気にしていくれているんです」。Myu広報部の齋藤友幸さんが毎週大量の写真を撮影してくれていることにも感謝。「小美玉って素晴らしい人がたくさんいるんだなあと思います」と話してくれました。

昨年12月から、Myuの運営を司る役員としても活動。「そうか、一人ひとりのことを考えてこんなふうになっていて、こういうことをやっているんだ!という気づきが多いです。月1回の会議がとても大切だな」と感じる

そうです。

Myuに関わるようになってから「見識が広がり、考え方の幅ができました。人との接し方も学び、私自身の人生もステップアップした」そう。2018年、第1回全国ヨーグルトサミットの時に上演したオリジナルミュージカル「ヨーグルトのまちで〜白い妖精のきせき〜」に出演して頑張った稟華さんを見て「私も頑張ろうと思って仕事に復帰しました。主人も応援してくれています」と平根さん。

「みの〜れは、楽しさがいっぱい詰まっているところだと思います。ここに来ると、みんなが笑顔で頑張っていると思うから私も頑張れました。みんなで作った美術や衣装が本番でどのように映えるのか、公演を楽しみにしています」と嬉しそうに話してくれました。

(藤田佐知子)